

経済・金融 フラッシュ

11月日銀決定会合： 政府のデフレ宣言と認識は異なっていない

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 政府3年5ヶ月ぶりにデフレ宣言、白川総裁「政府のデフレ宣言と認識は異なっていない」

日銀は19・20日開いた金融政策決定会合で、政策金利の誘導目標を0.1%前後に据え置くことを全員一致で決定した。景気判断は、「持ち直しつつある」から「持ち直している」に上方修正している。

10月末に展望レポートが示され、当面の目玉だったCP・社債買取は年末、企業金融支援特別オペは年度末で終了が決定されており、今回の決定会合で大きな政策変更の可能性は低く、決定内容は予想の範囲内だった。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2009年11月	景気は持ち直している
2009年10月	景気は持ち直しつつある
2009年9月	景気は持ち直しに転じつつある。
2009年8月	(据え置き)
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	(据え置き) ▲
2009年3月	(据え置き)
2009年2月	(据え置き) ↓
2009年1月	景気は大幅に悪化している。
2008年12月	景気は悪化している。
2008年11月	景気は、既往のエネルギー・原材料価格高の影響や輸出の減少などから、停滞色が強まっている。
2008年10月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響や輸出の増勢鈍化が続いていることなどから、停滞してい

今回の注目点は、本日政府が発表した3年5ヶ月ぶりの「デフレ宣言」、第2次補正の概要に対する白川総裁の見解だった。

ここ数日、閣僚からデフレ懸念、日銀への牽制発言が相次いでいる。今回月報の物価は、「中長期的な予想物価上昇率が安定的に推移する想定のもと、石油製品価格などの影響が薄れていくため、下落幅が縮小していく」と見方は変えていない。

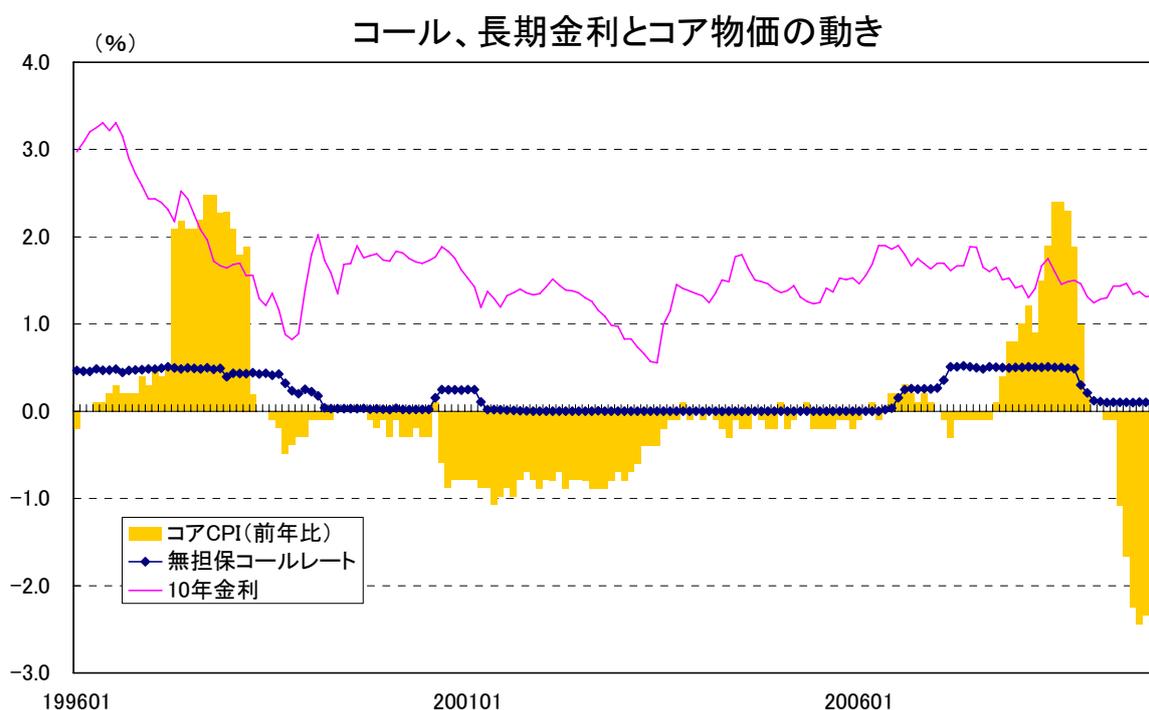
白川総裁は会見で、政府が「デフレ宣言」をしたことについて、「持続的な物価下落を指しているのであれば、日銀の展望レポートと認識は異なっていない」、また「物価が持続的に下落するのは需給バランスの緩和によるもので、最終需要の弱さにより生じる」と説明。

その上で「政府・日銀とも、最終需要に働きかける努力をしていくことが必要だ」との認識を示す一

方で、「物価下落の原因が流動性の制約ではなく、需要自体が不足している時には、流動性を供給するだけでは物価は上がってこない」と追加緩和に慎重な見解を示した。

白川総裁が今回述べた金融政策では解決が難しいという見方は、たしかにその通りだ。しかし、今回の2次補正に盛り込まれる追加経済対策も効果は小さく、2番底リスクを軽減する力はない。とはいえ財政も財源問題がない袖は振れない状況にある。

財政・金融政策の手詰まり感、デフレ宣言など、何か2000年前半の状況に類似する点が多くなってきている。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。